

令和4年3月24日

総合支援課

令和3年度（2021年度）心のアンケートの結果について

1 目的

「熊本市いじめ防止基本方針」に基づく「いじめの防止等（いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処をいう。以下同じ。）のために本市が実施する施策」として、熊本市立小中高等学校及び特別支援学校の児童生徒を対象にして、無記名のアンケート調査を実施することにより、各学校が児童生徒の思いに寄り添い、いじめの実態を把握するとともに、迅速・適切な対応を行い、いじめのない、すべての児童生徒が安心して、楽しく学校生活を過ごせる学校づくりに取り組むための資料とする。

また、認知された事例をもとに各学校、教育委員会におけるいじめの防止等のための具体的な対応策を検討・実施する資料とする。

2 調査期間 令和3年11月10日～12月末日

3 調査対象 熊本市立小中高等学校・特別支援学校のすべての児童生徒
（小学生：40,047人、中学生：18,112人、高校生：1,652人）

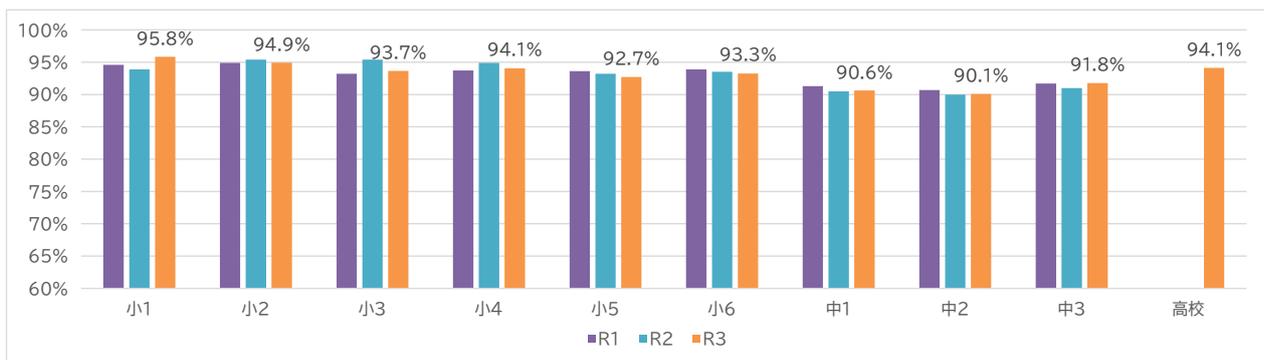
※高校生は今年度から調査対象に含んでいる。

4 調査結果

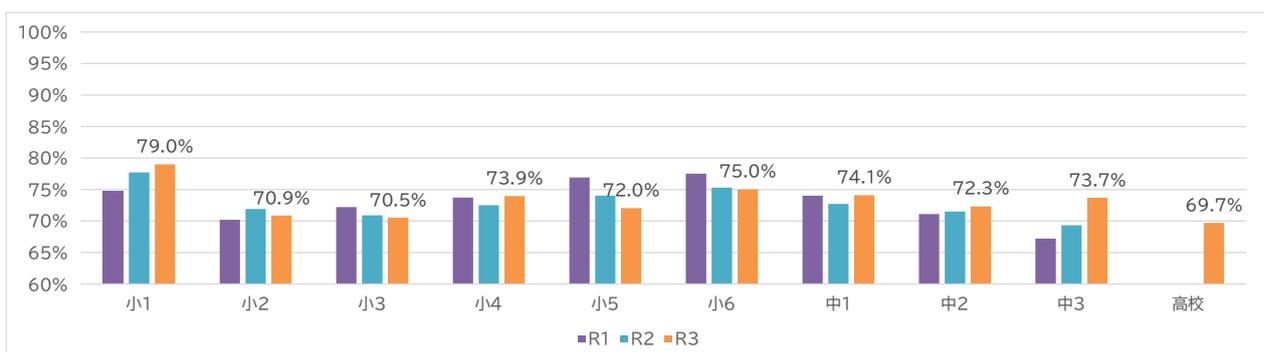
※高校生は調査対象生徒数が少ないため、【問1】、【問2】、【問12】、【問15】、【問17】のみ結果を提示している。

【問1】 今の気持ちについての質問

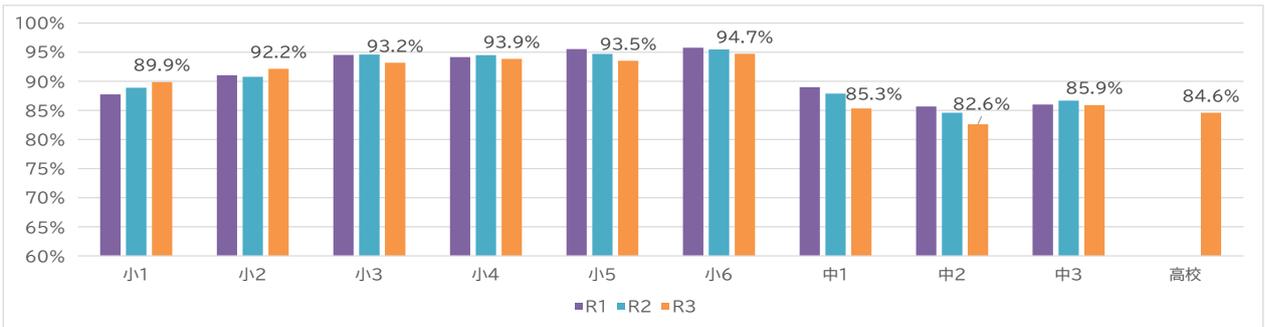
（1）学校は楽しいですか。



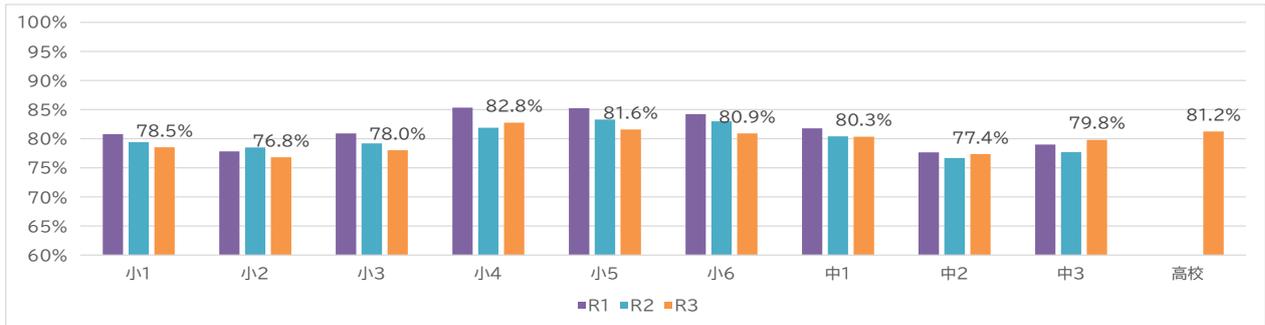
（2）授業や学級の役割など、学校生活の中で誰かの役に立っていると感じることはありますか。



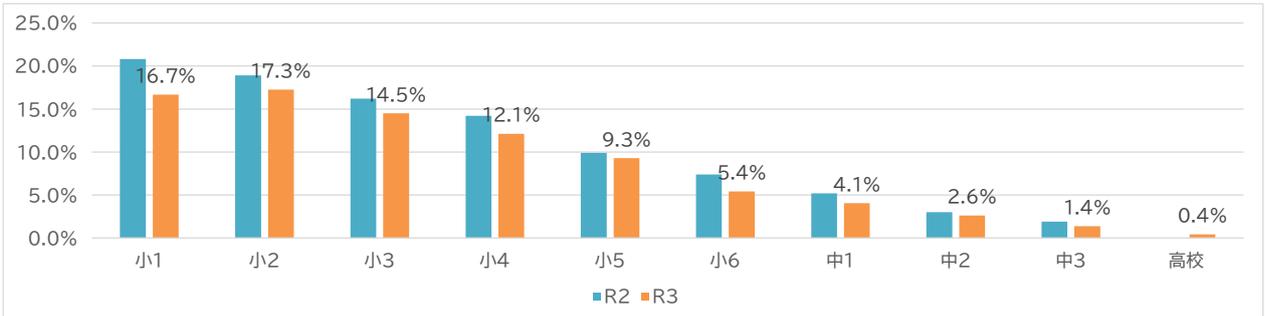
(3) 授業がよくわかりますか。



(4) スポーツや音楽、趣味など、自信のあることや自慢できるものがありますか。

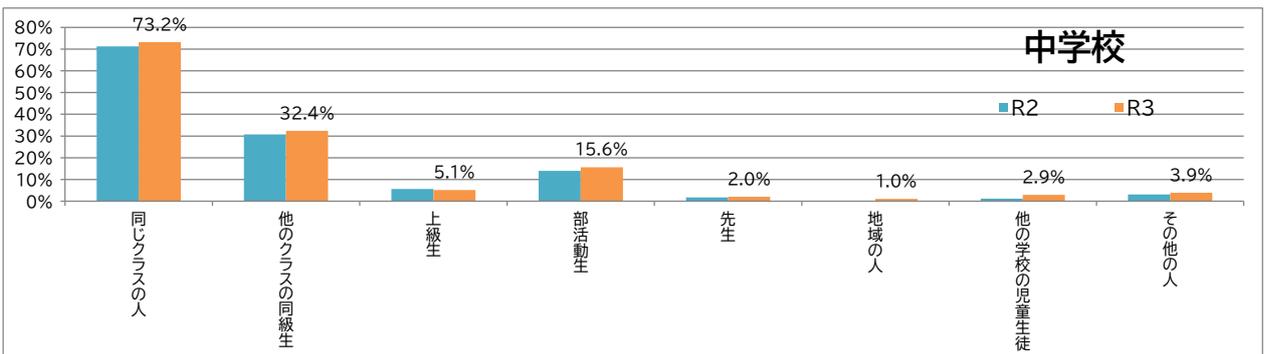
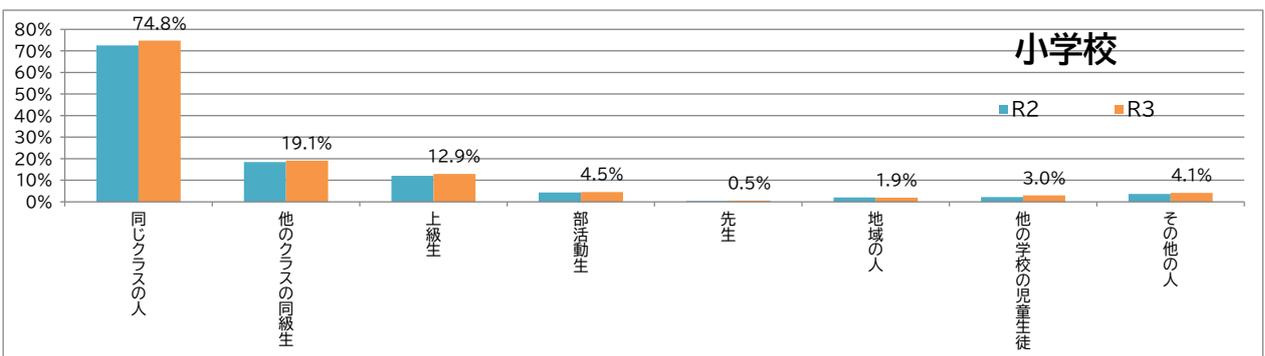


【問2】 今の学年でいじめられたことがありますか。



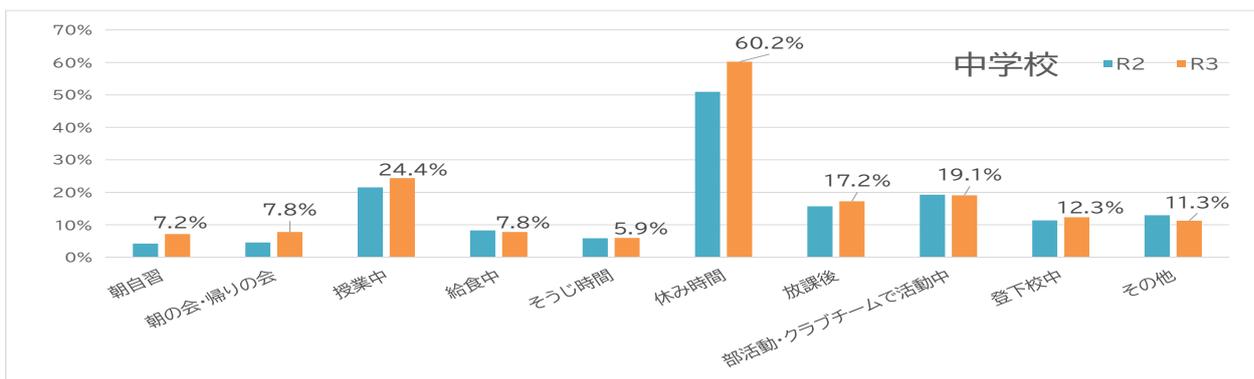
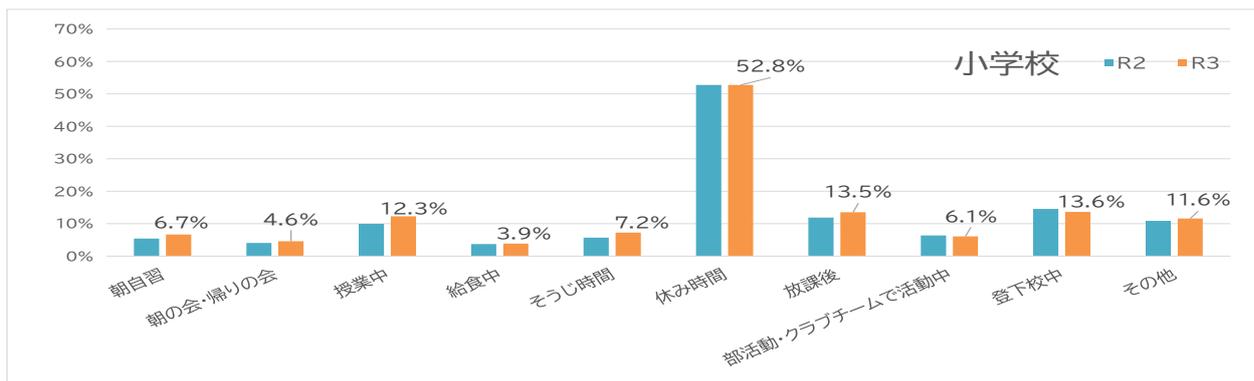
【問3】 誰からいじめられましたか。 ※複数回答

(【問2】でいじめられたことがあると答えた児童生徒が回答)



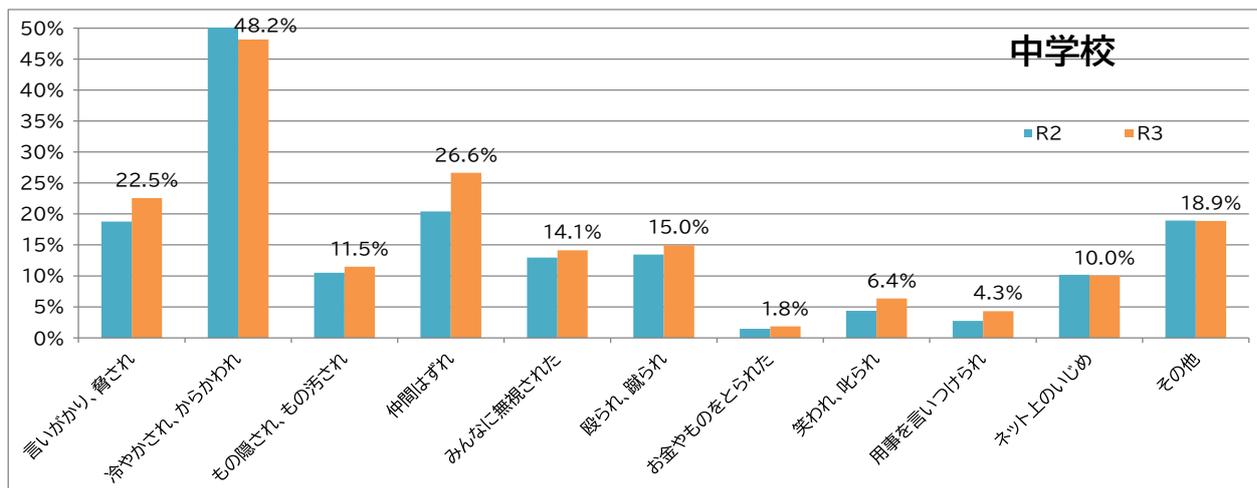
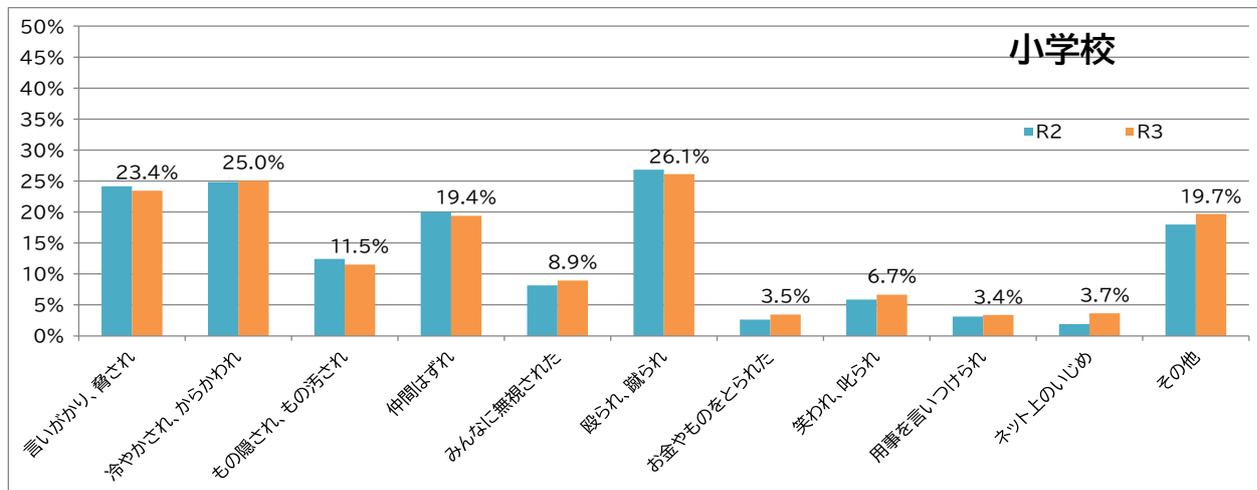
【問4】 いじめがどのような場面で起こりましたか。※複数回答

（【問2】でいじめられたことがあると答えた児童生徒が回答）



【問5】 どんないじめを受けましたか。※複数回答

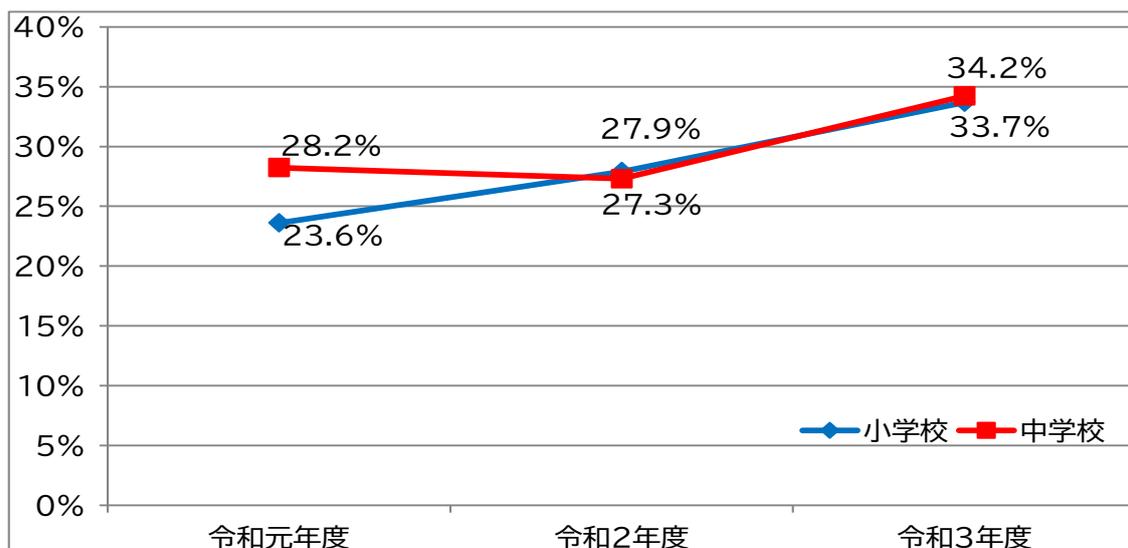
（【問2】でいじめられたことがあると答えた児童生徒が回答）



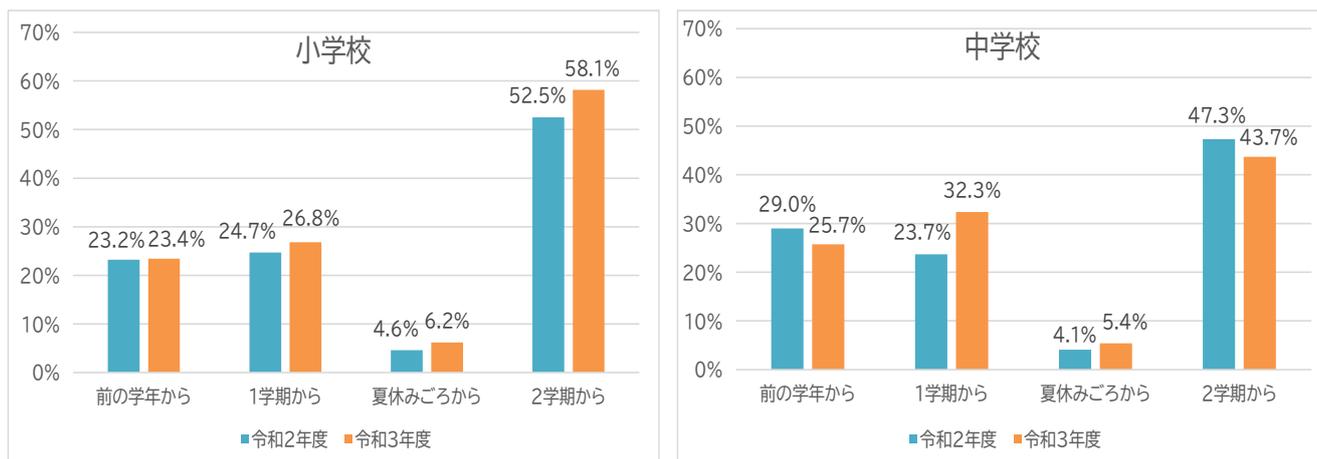
【問7】 今もいじめは続いていますか。

（【問2】でいじめられたことがあると答えた児童生徒が回答）

＜今もいじめが続いていると答えた児童生徒の割合＞



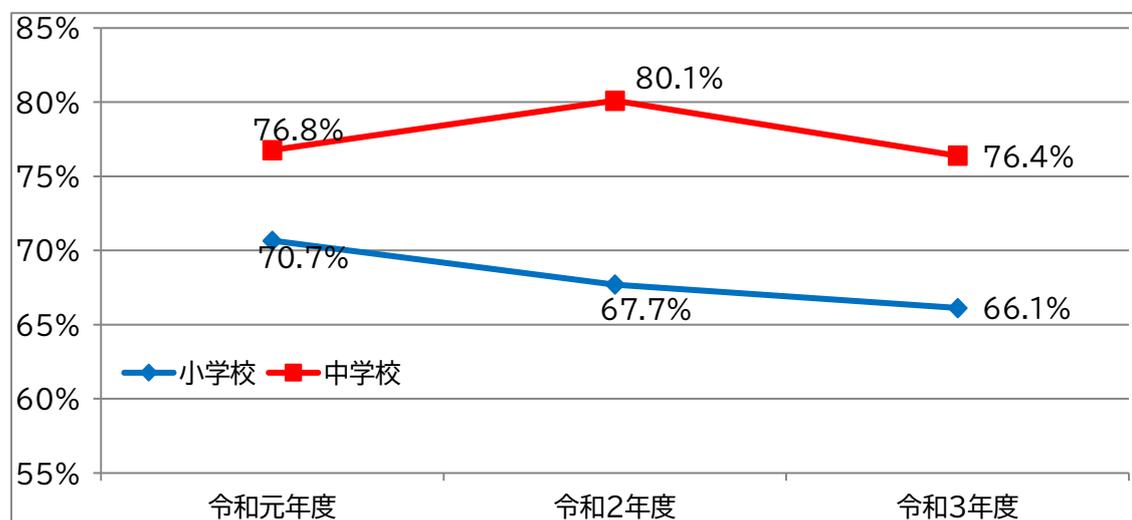
いつから続いていますか。（【問7】でいじめが続いていると答えた児童生徒が回答）



【問8】 いじめられたことを誰かに話をしましたか。

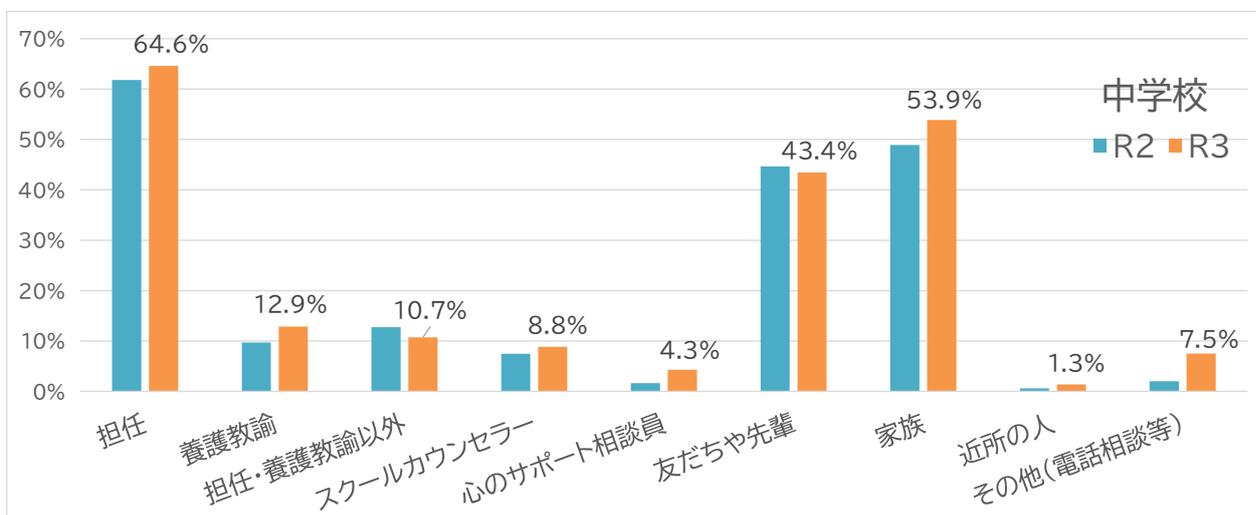
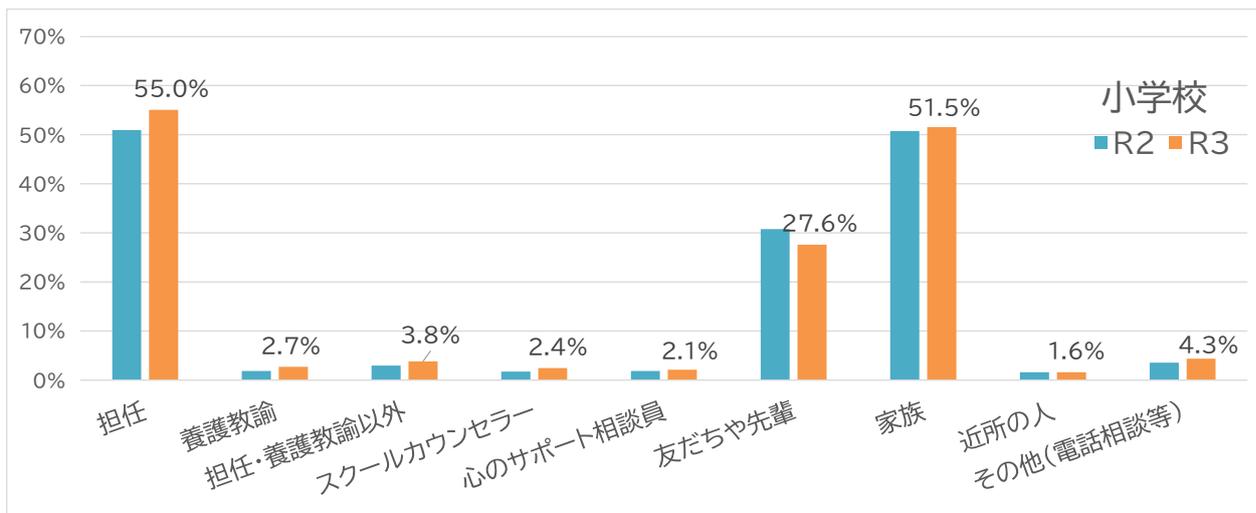
（【問2】でいじめられたことがあると答えた児童生徒が回答）

＜いじめられたことを誰かに話したと答えた生徒の割合＞



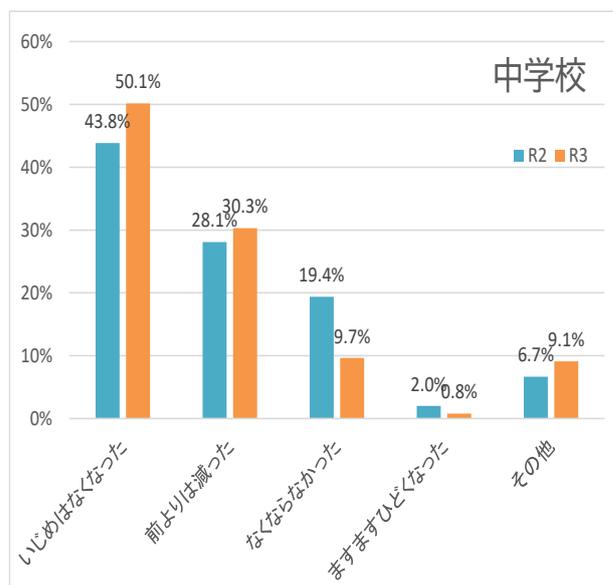
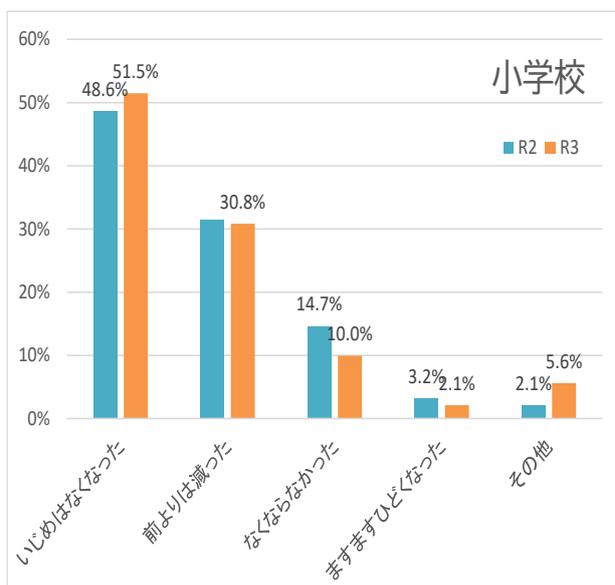
【問9】 誰に話をしましたか。※複数回答

(【問8】でいじめられたことを誰かに話したと答えた児童生徒が回答)



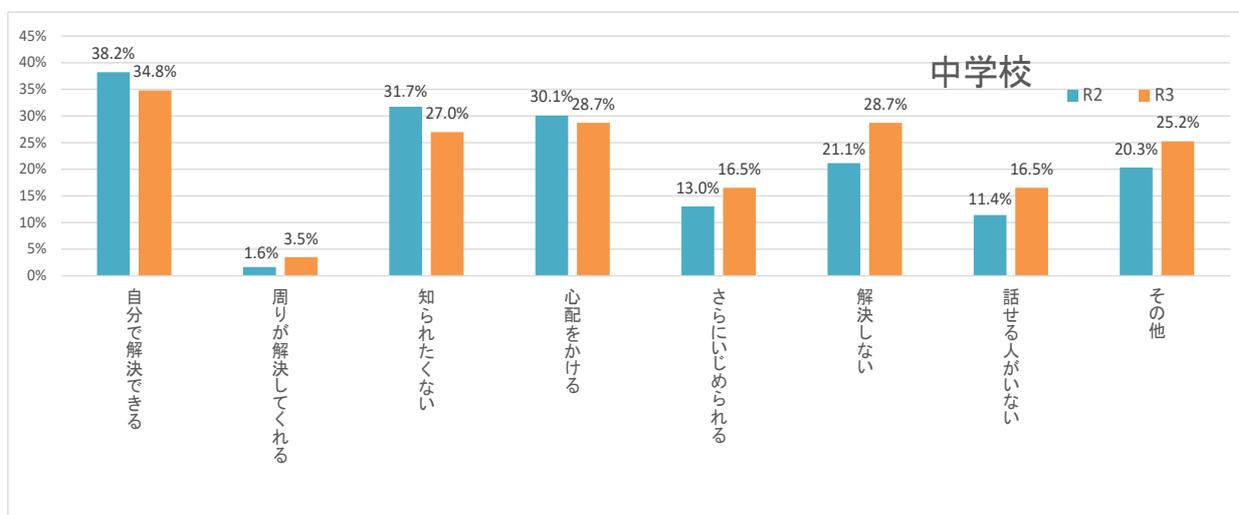
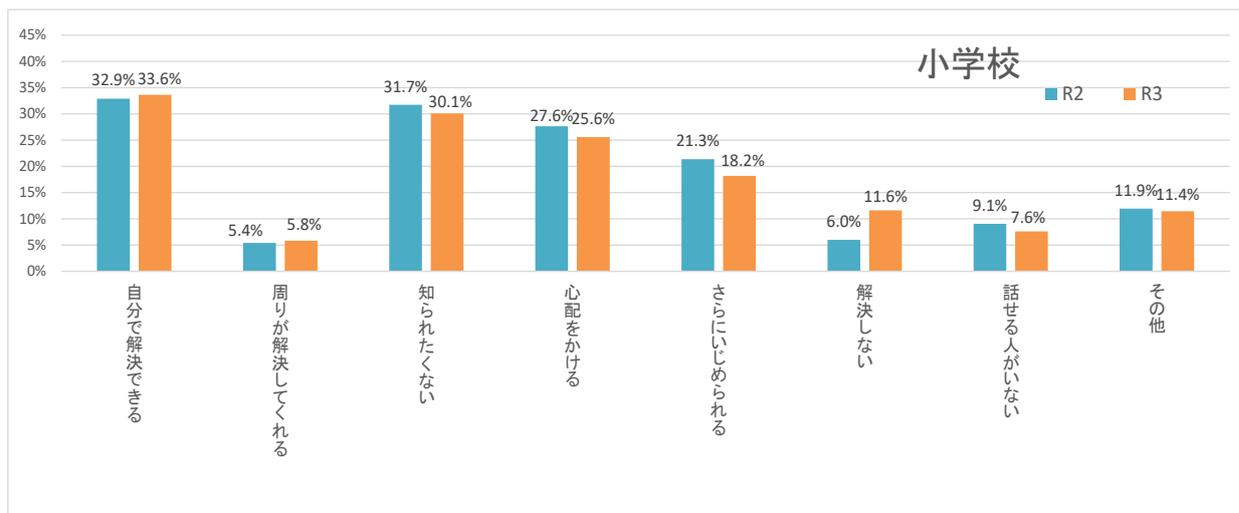
【問10】 話した結果どうなりましたか。

(【問8】でいじめられたことを誰かに話したと答えた児童生徒が回答)



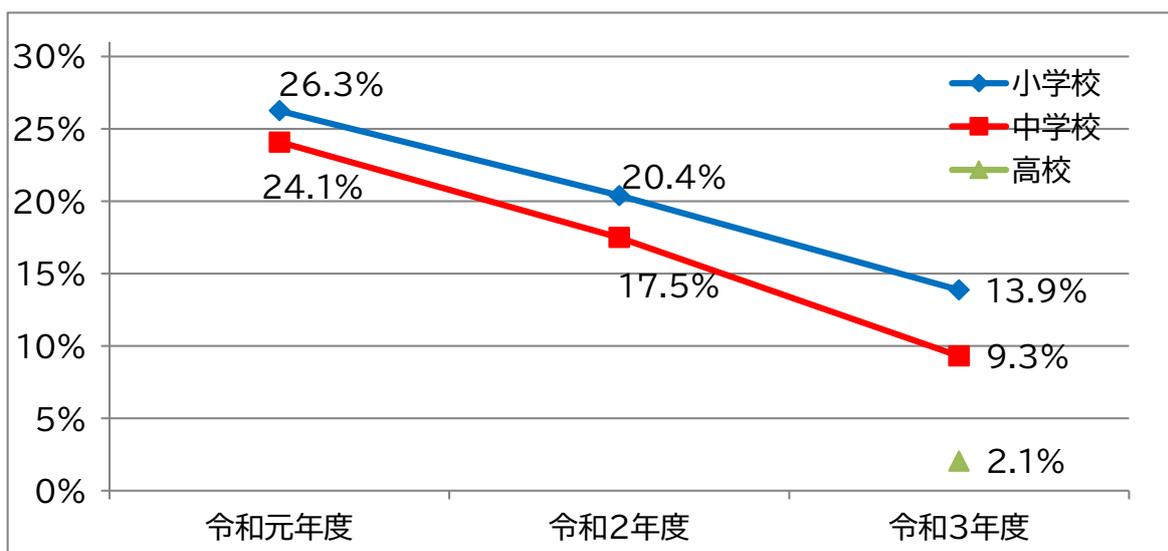
【問11】 なぜ話をしなかったのですか。※複数回答

(【問8】でいじめられたことを誰にも話していないと答えた児童生徒が回答)



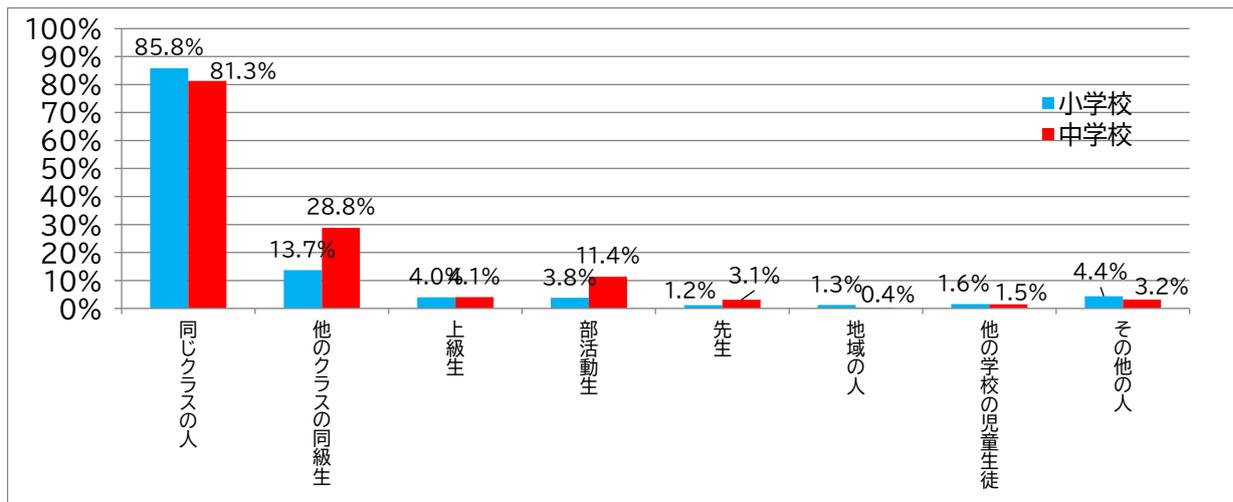
【問12】 今の学年になって誰かに嫌なことを言ったり、したりしたことがありますか。

<嫌なことを言ったり、したりしたことがあると答えた児童生徒の割合>



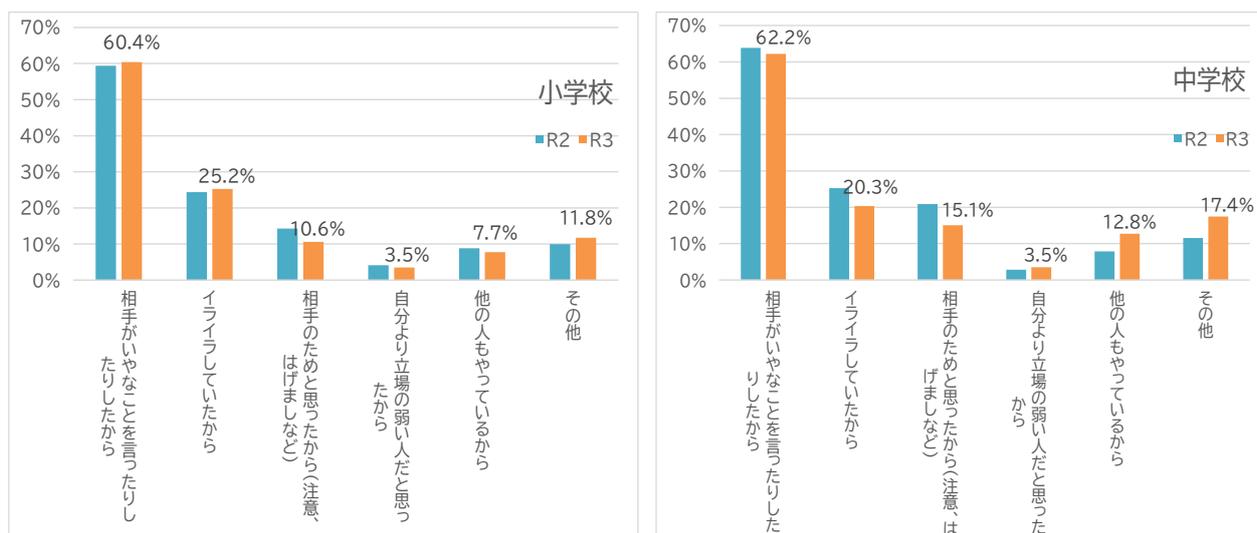
【問13】 誰にいやなことを言ったりしたりしたか。※複数回答

(【問12】で誰かに嫌なことを言ったり、したりしたことがあると答えた児童生徒が回答)



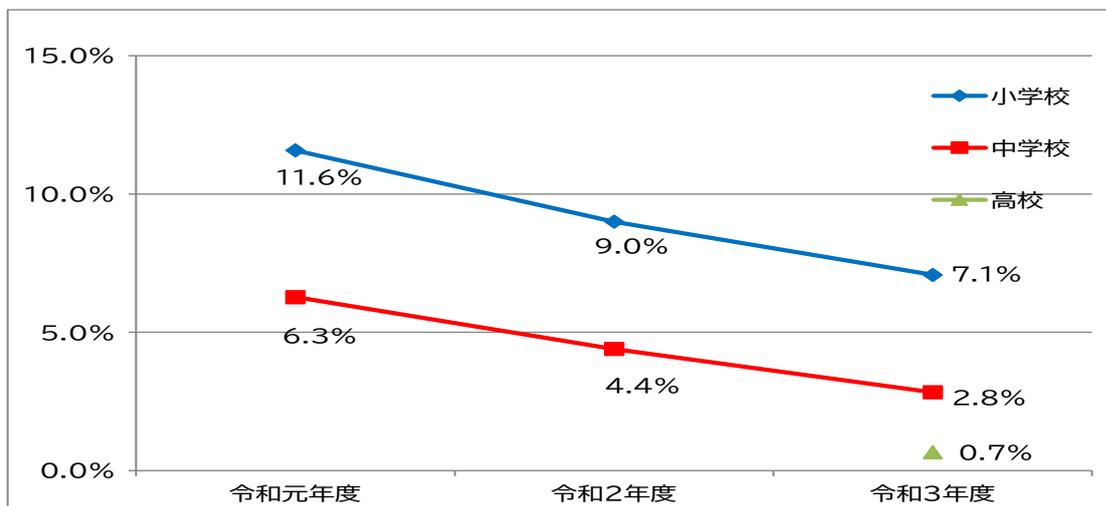
【問14】 なぜ相手がいやと思うようなことを言ったりしたのか。

(【問12】で誰かに嫌なことを言ったり、したりしたことがあると答えた児童生徒が回答)



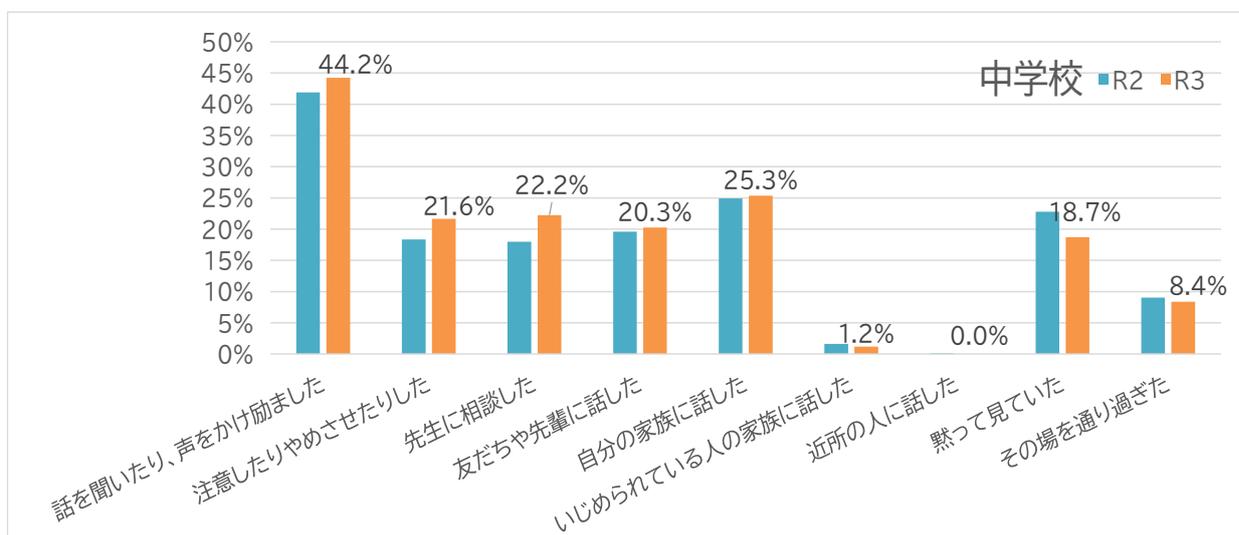
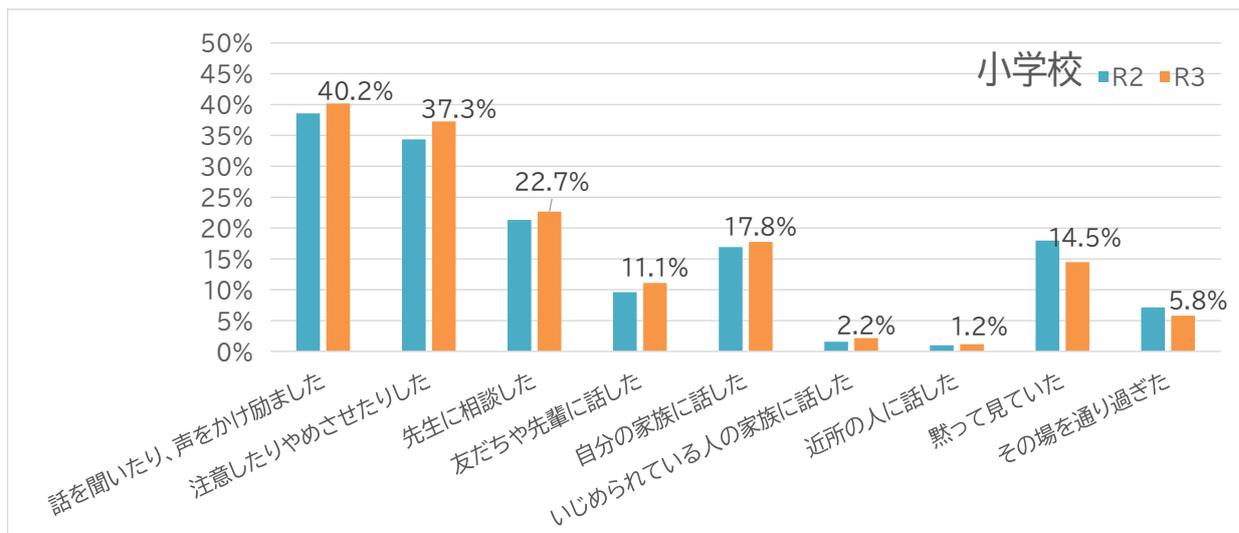
【問15】 今の学年になって誰かがいじめられているのを見たり聞いたりしたことがありますか。

<見たり聞いたりしたことがあると答えた児童生徒の割合>

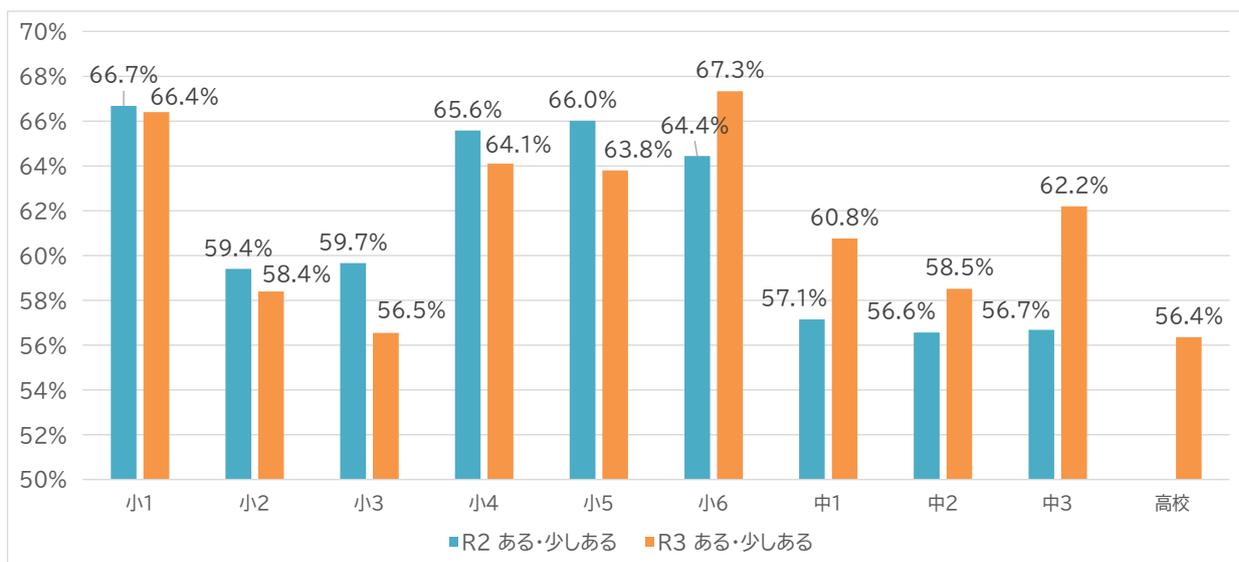


【問16】 いじめを見たり聞いたりしたとき、どうしましたか。※複数回答

(【問15】でいじめられているのを見たり聞いたりしたことがあると答えた児童生徒が回答)



【問17】 あなたのクラスに「いじめをゆるさない」という雰囲気はありますか。



5 アンケート結果からみえた課題

- 【問1】(2)「授業や学校の役割など、学校生活の中で誰かの役に立っていると感じることはありますか。」で、小学校の73.6%、中学校の73.4%、高校・支援学校の69.7%の児童生徒が「ある、少しある」と回答したが、どの校種においても、約3割の児童生徒は自己有用感を得られていない。
- 【問2】「今の学年になっていじめられたことがある。」と答えた児童生徒のうち、【問8】「いじめられたことを誰かに話をしましたか。」で「話した。」と答えた児童生徒は、昨年度より小学校で1.6%、中学校で3.7%減少した。小学生で33.9%、中学生で23.6%が誰にも相談していない。
- 【問9】「誰に話をしましたか。」では、「担任」や「家族」と答えた割合は、中学校より小学校の方が低い。また、小学生の方が「担任」や「家族」以外の相談できる人が少ない。
- 【問11】いじめられたことを「なぜ話をしなかったのですか。」では、「知られたくない」「心配をかける」と答えた児童生徒が、小中学校とも約3割いる。
- 【問17】『あなたのクラスに「いじめを許さない」という雰囲気はありますか。』では、中学校はどの学年も昨年度より割合が高くなったが、小学校は6年生以外は昨年度より低くなった。

6 課題解決に向けた取組

- 自己有用感を高めるために
生徒指導の3機能（「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」）を活かした学級づくり・授業づくり等を日常的、継続的に実践していくこと、また児童生徒一人一人の活躍できる場を与えることで自己有用感を高めていく。
- 不安を感じたり、悩んだりしたとき、対処できるようにするために
不安や悩みを抱えたときの対処方法を知るための「SOSの出し方に関する教育」を今後、発達段階に応じて、系統的に行っていく。



<今年度>

- ・生徒指導主任主事会で「SOSの出し方に関する教育」について周知
- ・教育センター研究員による「SOSの出し方に関する教育」の研究と授業実践

<次年度以降>

- ・研究員の「SOSの出し方に関する教育」の研究実践の普及・啓発
- ・文部科学省等の教材を活用した系統的なカリキュラムの作成

- いじめを許さないという雰囲気を高めるために

「いじめは絶対に許さない」という指導を行うだけでなく、6月のいじめ根絶月間等を使って、「いじめとはどのようなものなのか」「なぜいじめをしてはいけないのか」を学級の実態に応じて、子どもたち自身で話し合い、学ぶ機会を設定する。